



南奈良総合医療センター

総合診療専門研修プログラム



暮らしを共に創る医療

南和地域の「暮らし」

吉野桜や吉野杉、柿、梨などで有名な奈良県南部の南和地域。複数の山々を抱える広大な土地には穏やかな時間が流れ、約6万人が暮らしています。

南和の医療は南和で守る

南和地域に唯一の急性期病院である南奈良は関連施設と連携しながら地域住民の健康を守っています。

総合診療と「暮らし」

地域を知り、相手を知り、自らを知る。
医療の不確実性をチームで乗り越えていく。

相手の「心地よい暮らし (Well being)」について
対話を重ね、共に考え、皆で未来を創りあげていく

そんな医師になるための研修が
南奈良総合医療センターの総合診療プログラムです

南奈良総診のあるべき姿

すべてのの方々に寄り添い、
地域に根ざした温かい医療を提供します。

多職種と連携を図り、健康に関する
多様な問題に、チームで対応します。

自らの研鑽と後進の育成を重視し、
組織として継続的な成長を実現します。


私たちが大切にしている 4つの価値観

患者中心
Patient
First

改善文化
Innovation

連携志向
Respect

地域貢献
Community



臨床のコンセプト



バランスの取れた総合診療

全体像を掴み、勘所を外さない

私たちは**医学の視点**を大切にしています。サイエンティストとして細部まで分析し、目の前の相手を困らせている疾患の本質に迫ります。医学のプロフェッショナルとして自らを高めつつ、各分野のエキスパートと連携しながら、「グローバル基準の医学」を考え続けています。

また、私たちは**生活者の視点**も大切にしています。目の前のひとはどのような人生を歩み、健康問題に対してどのような感情や悩みを抱き、どのような暮らしを望んでいるのか。全体像を俯瞰的に分析し、本人や家族、医療チームメンバーとじっくり話し合い、「本人にとって最も幸せな選択は何か」を考え続けています。



サイエンティストとして

内科学を中心とした診察、基本手技、診断・治療のスキルを学びます。
多様なケースを経験できます。近年、当科で対応したケース例を示します。

南奈良総合医療センターにて新たに診断/対応した疾患

顕微鏡的多発血管炎、高安動脈炎、皮膚筋炎、壊死性筋膜炎、粟粒結核、
感染性心内膜炎、COVID-19、喘息重責発作、急性心不全、虚血性腸炎、SLE、
敗血症性ショック、悪性貧血、化膿性脊椎炎、脳梗塞、肝膿瘍、ALS、IgA血管炎、
成人Still病、血球貪食症候群、リウマチ性多発筋痛症、甲状腺クリーゼ
播種性帯状疱疹、ビタミンK欠乏症、好酸球性肺炎、悪性リウマチ、
ベーチェット病、肺炎、尿路感染、下降期慢性疾患、末期がん在宅看取り、など。

村立診療所にて新たに診断/対応したケース

自己免疫性無汗症、自己免疫性肝炎、ANCA関連血管炎、
アスピリン喘息、間質性肺炎、ビタミンB12欠乏性認知機能低下、
甲状腺癌、前立腺癌、唾石症、非痙攣性てんかん発作、フレイル
脳出血、脳幹梗塞、大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、帯状疱疹、
末端紅痛症、大動脈瘤、パーキンソン病、冠攣縮性狭心症
末期がん在宅看取り、生活習慣病、学校検診、鷺足炎、ACNES、
発達障害、認知症、巻き爪、白癬、Elsberg症候群、など。

ジェネラリストとして

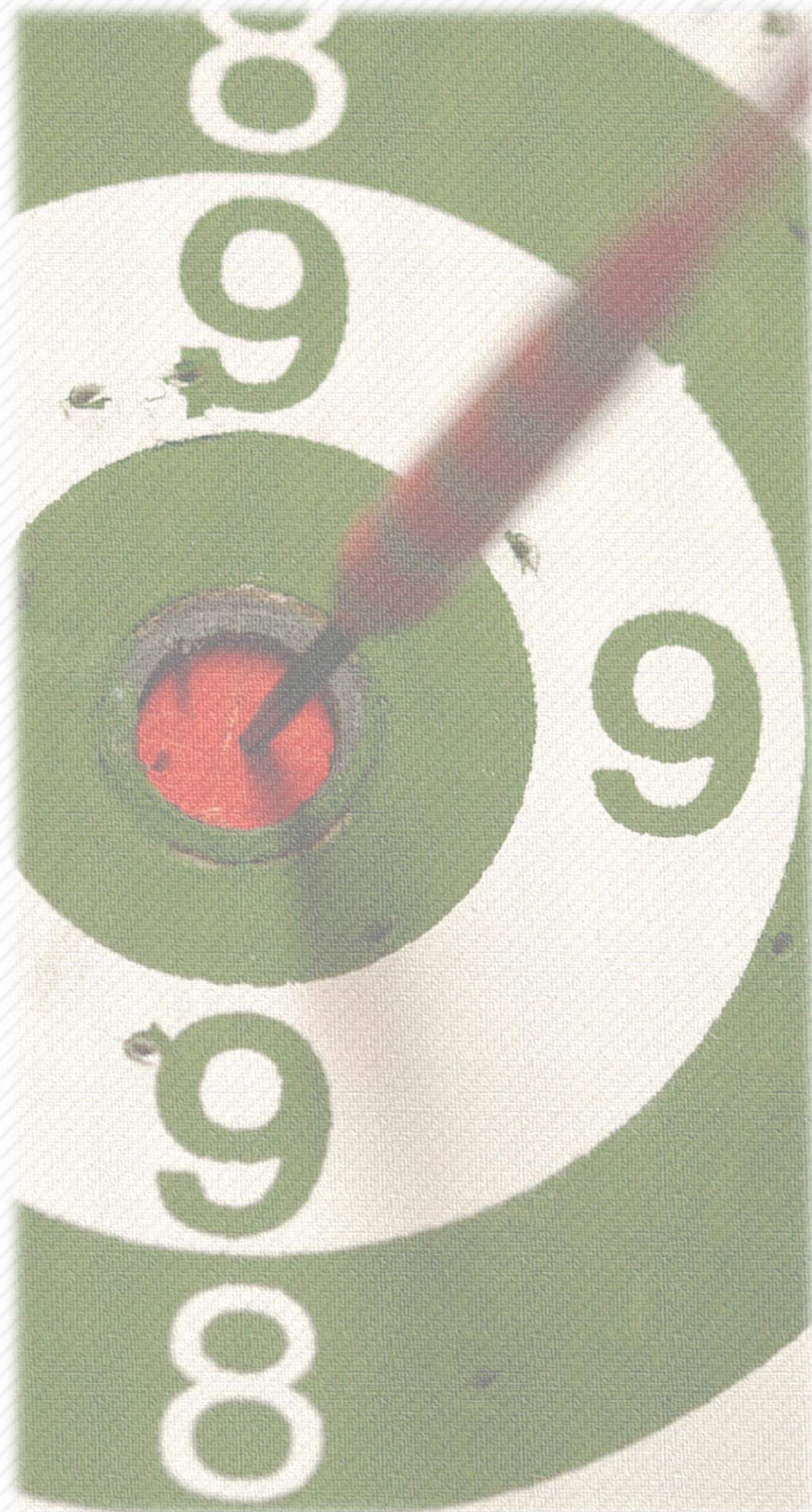
皆さんが実際に経験したことを、多様な分野に精通した指導医と共に理論的に振り返ることで、ジェネラリストとしての実力が身に付きます。

家庭医療学のエッセンスの例

- ・ 家族や地域を含む、患者背景に配慮した状況把握の方法
- ・ 社会面に問題を抱える住民を多職種でサポートする方法
- ・ 継続性を意識した施設運営の方法
- ・ 患者さんの趣味/生きがいを軸とした介入方法の立案
- ・ イラっとしがちな場面での患者医師関係に配慮した振る舞い
- ・ 相手の健康問題を共に探り、最も効果的な介入案を計画する方法
- ・ 複雑性の高いマルチモービディティ/ポリファーマシーへの介入

医学教育学、経営学など他分野の応用例

- ・ 各要素のつながりを見抜き、健康問題の全体像をつかむ
- ・ 不確実性の度合いに応じた効果的な戦略立案
- ・ 意思決定表を用いたShared Decision Makingの実践
- ・ 省察の習慣化とSignificant Event Analysisによる経験の深掘り
- ・ Pendleton Modelによる効果的なフィードバックと医学教育
- ・ リーダーシップ理論に基づくチーム運営





多様な研修の場と診療内容

ER研修

週1～2回
上級医とペアで
内科ブースを担当



救急件数 13,000件/年
救急車受入 3,400台/年

ドクターヘリの基地病院でもある南奈良。
ER診療も充実しています。豊富な症例数を
活かし、救急研修は院内でのカリキュラム形式
を採用。通年で救急対応を学ぶことができます。

唯一の救急病院として地域の疾患頻度をそのまま
反映しているためコモンディジーズを多数経験でき、
重症ケースやレア疾患にも常に一定の割合で遭遇します
専攻医1年目は総合診療科の上級医とペアで診療します。

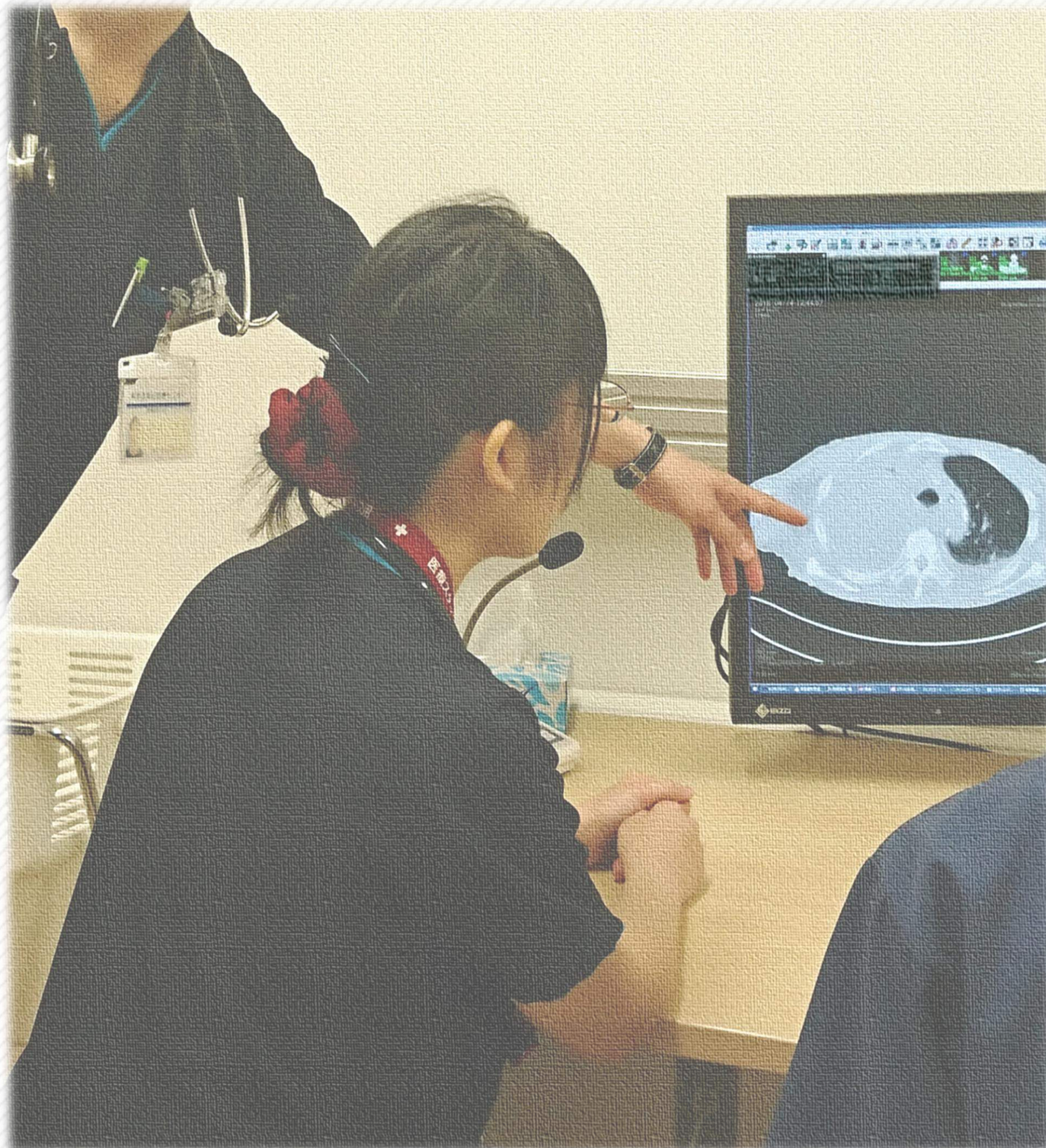
外来診療研修

週1回

5～10人/回

生活習慣病、健診異常のマネジメント、入院中に担当していた患者さんのフォローや、他科/他院からの紹介ケースなどを担当します。診断困難例、複雑事例なども指導医とディスカッションしながら主治医として診療します。

「外来予習カンファレンス」が毎週行われ、専攻医1年目は翌週に診察予定の全患者さんを指導医とともに予習します。上級医とともにマネジメント方針を練ることで、患者安全が保たれ、自らの外来力も向上させることができます。初学者でも安心して外来に臨めます。



病棟診療研修

上級医を含む屋根瓦チーム診療
1チームあたり10名程度。
新入院も常時あり、豊富な症例数

安心の屋根瓦式チーム診療で、さまざまな患者さんを担当します。

多数のコモンディーズに加え、医学的に難しい病態の診断・治療、急性期～慢性期までの時間の流れ、心理面・社会面にも配慮した病院における家庭医療学の実践も学べます。

中心静脈穿刺や骨髄穿刺など基本技術が学べるほか、「内視鏡、整形外科、皮膚科」なども各自の希望に応じてアレンジできます。





訪問診療研修

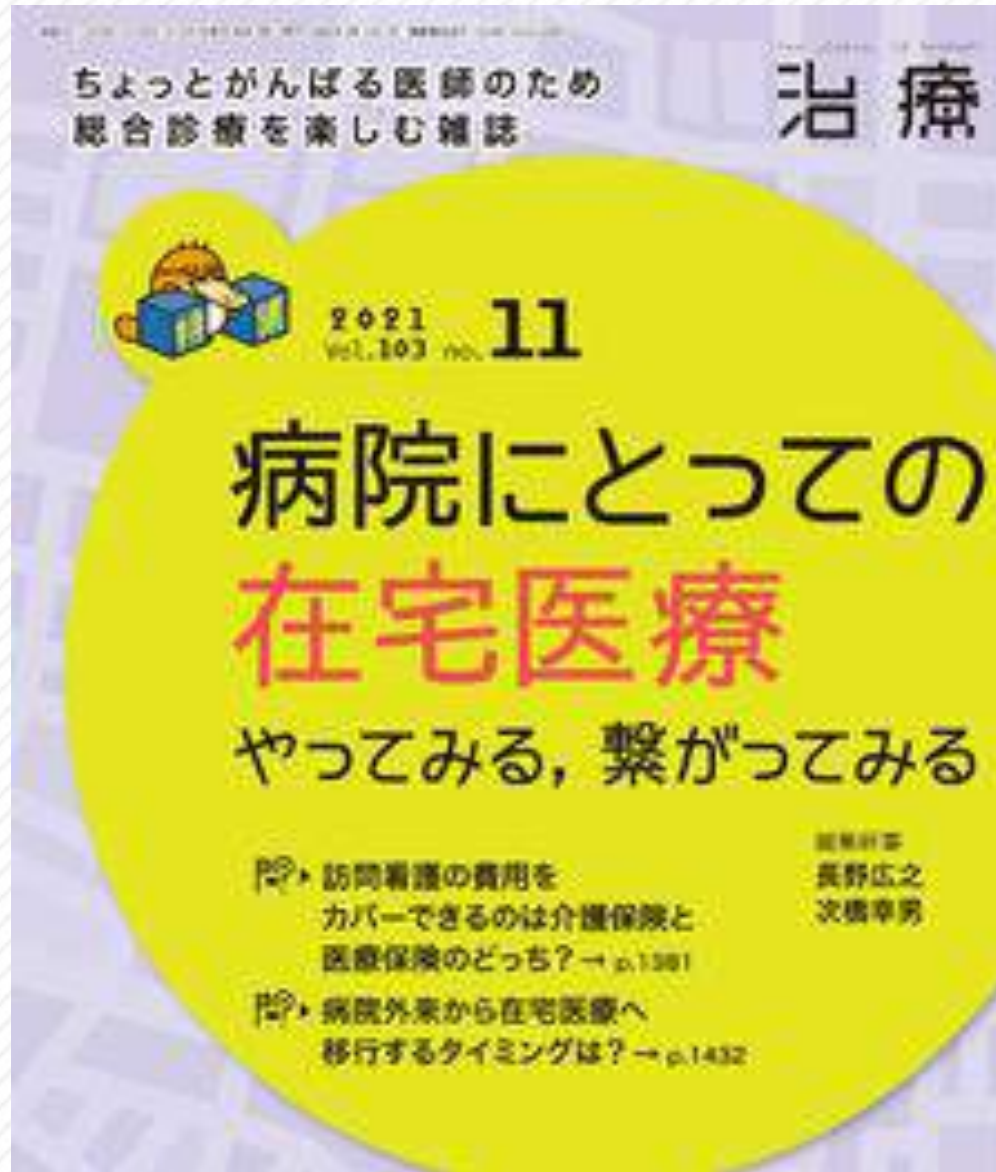
週1回
在宅専門医による手厚い指導

南奈良は急性期病院でありながら自前で訪問診療を行っています。急な増悪も南奈良へ搬送や入院診療が可能で、全過程において主治医として継続的にケアに関わることができます。

約2500件/年、在宅看取り約80件/年の実績がありますが、近年さらにニーズが高まっています。悪性腫瘍の在宅看取りはもちろん、神経難病や非癌疾患の診療も充実しており、併設の訪問看護ステーションや地域のスタッフと連携して、地域住民の皆さんが、住み慣れた地域で最期まで暮らすお手伝いをしています。



『急性期病院×在宅診療』の強み



【当院から3名の医師が招聘執筆】

- ・在宅医療で重要な社会制度とは 天野雅之
- ・神経疾患における在宅医療 澤 信宏
- ・病院外来から在宅医療へのケア移行 明石陽介



一般社団法人

日本内科学会

The Japanese Society of Internal Medicine

テーマ 『内科医×在宅医療』

1. 【はじめに】

- ・本教育セミナー開催にあたって；

世話人：南奈良総合医療センター総合診療科/在宅医療支援センター 明石 陽介

2. 【入門編】

- ・在宅医療の最近のトレンド；

天理よろづ相談所病院 法人事務局/白川分院 在宅医療センター 次橋 幸男

- ・“内科医×在宅医療” ケア移行のポイント；

南奈良総合医療センター総合診療科/在宅医療支援センター 天野 雅之

3. 【実践編】

- ・“診療所×在宅医療”の最前線；

なないろクリニック 池島 英之

- ・“病院×在宅医療”の最前線；

南奈良総合医療センター総合診療科/在宅医療支援センター 明石 陽介

4. 【パネルディスカッション】

- ・『在宅医療の現在と未来』

コーディネーター：次橋 幸男 / パネリスト：明石 陽介、池島 英之、天野 雅之

近畿地方会 教育セミナー運営

在宅と急性期医療は表裏一体。急性期病院が行う在宅診療は、間違いなく今後のトレンドとなります。

南奈良はこの分野で先駆的な取り組みを行っています。

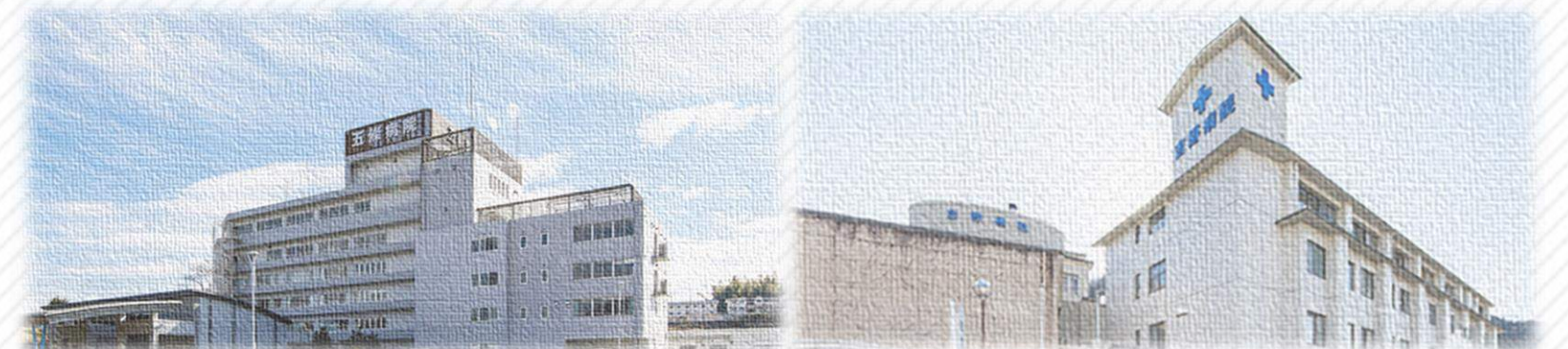
商業誌への執筆依頼を受けたり、内科学会近畿地方会の教育セミナーを任されたりしています。

地域研修

コースに応じて1～2年間
週1回のワンデイバックあり

南奈良で実力をつけたら、いよいよ地域での研修です。各自の希望やコースに応じて山間部のへき地診療所での勤務や医療過疎地域の関連病院で研修できます。地域住民の暮らしに寄り添い、生活習慣病や介護調整、学校医、乳幼児健診、地元のお祭りの参加や地域の医療政策への提言など、地域医療の醍醐味を余すところなく経験できます。

ICTやSNSを使った相談窓口があり、週1回は南奈良での研修も継続されるため生涯学習の支援体制も万全です。緊急時は南奈良の専門医へのコンサルトやヘリ搬送もあり、医療過疎地でも安全な環境で研修を継続できます。





医学教育

基幹型の臨床研修病院
附属の看護学校あり
医学生も多数受け入れ

南奈良の総合診療科は医学教育の提供にも力を入れています。基幹型の臨床研修病院として毎年やってくる研修医のメンターを担当しています。また、附属看護学校でのワークショップや、奈良医大を中心に全国から見学・短期実習としてやってくる医学生との交流も多数あります。学会でのワークショップ開催や商業誌(レジデントノート、総合診療など)への執筆の機会もあり、各自の興味関心に応じて、医学教育にも関わり続けることができます。

アウトプット

自らの経験を積極的に発信しています。医学界の発展に貢献できるのみならず、自らの成長にもつながります。

2022年度は当科の専攻医が内科学会近畿地方会で最優秀演題賞、優秀演題賞を受賞！

毎週のカンファレンスで発表機会が担保されているため、無理なく論理的思考を鍛えることができます。学会発表/論文執筆の機会に加え、商業誌への執筆機会もあります。

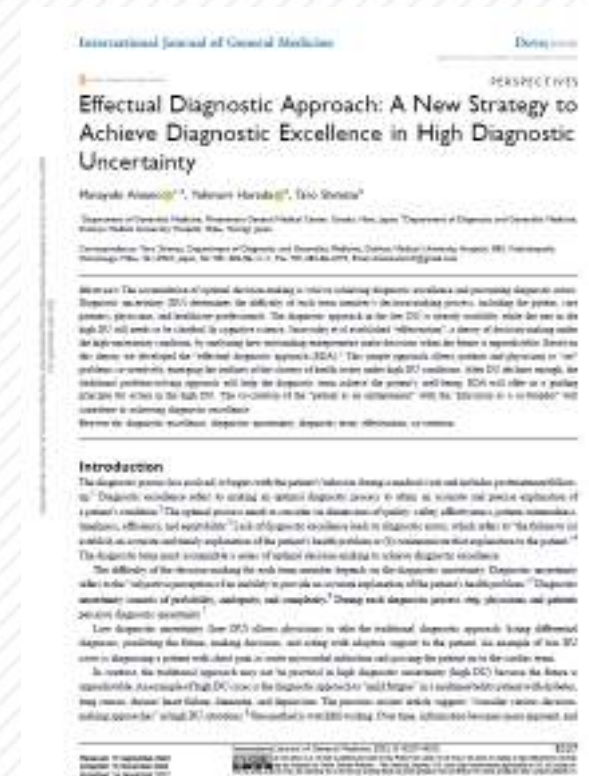
【専攻医による多数の発表】

- ・内科学会近畿地方会
- ・日本プライマリケア連合学会
- ・病院総合診療医学会 など

【専攻医が執筆した商業誌の例】



【専攻医や指導医が執筆した学術論文の例】





学 習 支 援 体 制

～日本一の手厚さを目指して～

臨床経験豊富な指導医陣



指導医は各研修の場で活躍する臨床医です。

指導医が執筆に関わった書籍のごく一部を公開します。



救急、外来、病棟、在宅の全てにおいて全国的な活躍をしている指導医陣が、皆さんをアツク指導します。

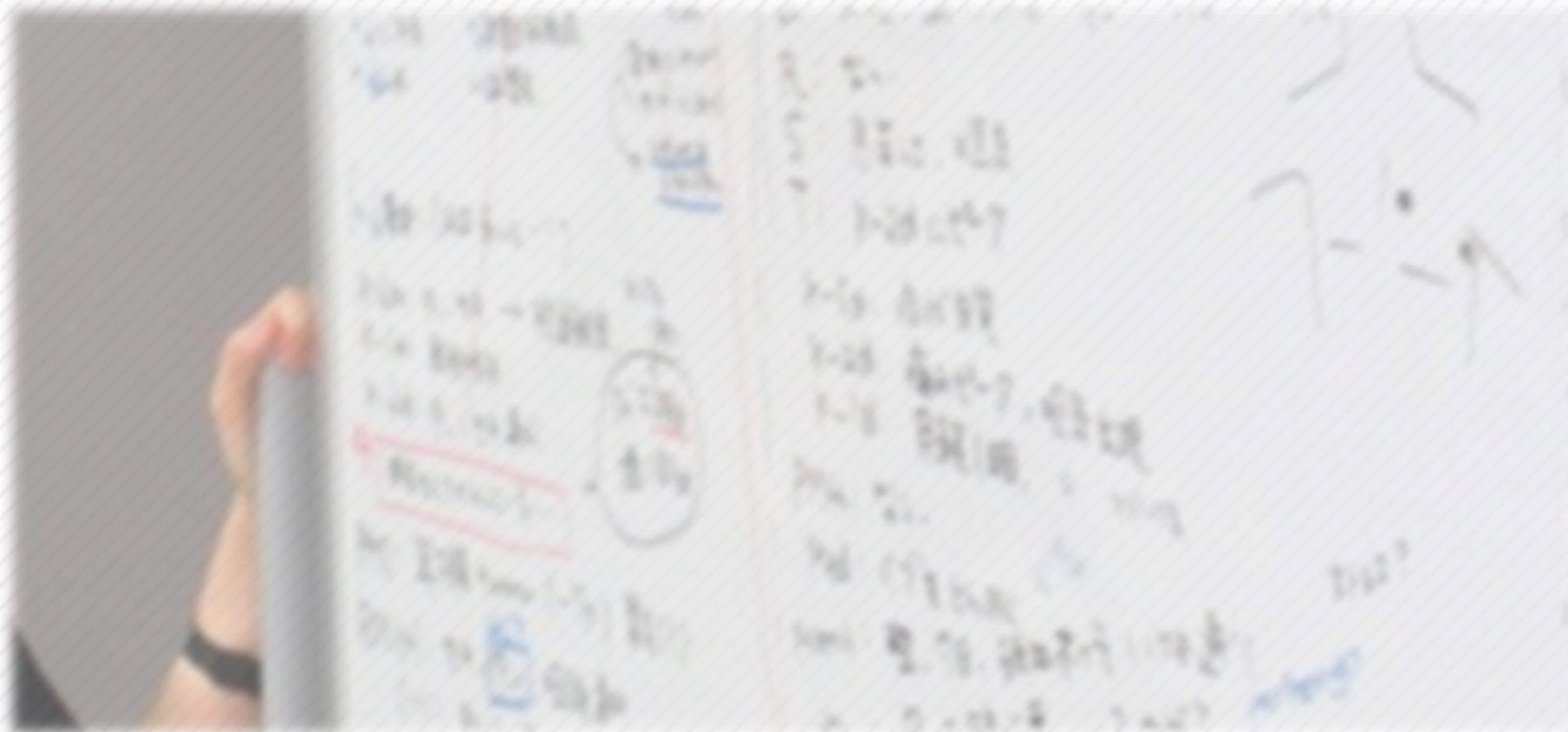
定期振り返りと lonlミーティング

南奈良の研修システムは経験学習理論に基づき、一つの経験から多くのことを学べるよう工夫されています。

専攻医の皆さんには「ちょっと頑張ればクリアできそう」なレベルに設定された「数多くの経験の場」が準備されています。今の自分には何が足りないか、どうすればその「差」を埋めて成長できるか。自らの気づきを促せるよう、指導医によるフォーマットに基づいた定期的な振り返りを毎週、行っています。

また、研修内容が各自のニーズに合っているか、業務量は適切か、研修の悩み・将来の方向性等を含め、専攻医と指導医がより良いカリキュラムを共に創り上げるための面談(lonlミーティング)を定期的に行います。





専攻医の教育と情報共有を目的とし、笑いも交えつつ心理的安全が保たれた和やかな環境でカンファを行っています。

Up to Dateや今日の臨床サポート、メディカルオンラインも自由に使用できます。担当患者の臨床疑問をその都度検索し、カンファで共有するスタイルを採用することで効率的に学びを深めることができます。

抄読会では家庭医療/総合診療系のトップジャーナルに加え、各診療分野のジャーナルも共有しています。

定期カンファレンス



病棟チームミーティング

訪問診療ミーティング

外来カンファ：外来診療力の向上

GIMカンファ：内科医の基礎力向上

家庭医療カンファ：ジェネリストの基礎力向上

論文抄読会：世界のトレンドを把握

レジデントデイ

毎月第3金曜日は基本スキルに関するワークショップがあります。
また、隔月で特別講師によるスペシャルレクチャーがあります。



山中克郎Dr

プロフェッショナリズム
鑑別診断



志水太郎Dr

診断戦略
診身体診察



坂本 壮Dr

救急外来
救急直対来応



佐藤健太Dr

リハビリ
慢性臓器不全



橋本忠幸Dr

医学教育
レクチャーの仕方



天野雅之

他科コンサル
病状説明

その他のテーマ

- ・プロブレムリストの作り方
- ・総合診療×経営学
- ・診断エラー入門
- ・感染症診療の原則
- ・紹介状の書き方
- ・セルフケア

成長戦略

Step 1

現場力

相手の健康問題を同定できる
目の前の状況を分析できる
ガイドライン通りに遂行できる

改善力

情報を検索し、同僚にシェアできる
自らの経験を振り返ることができる

共創力

相手に情報を伝達できる

具体例

典型的な尿路感染の患者を、
ER担当医として一人に対応できる

使いこなす 理論や学問 考え方の例

Disease/illness/Salutogenesis、
Causational Diagnostic Approach
Reflection、CUP-PASTA method

Step 2

複数の健康問題も整理・把握できる
システムへの効果的な関わりを立案できる
ガイドラインを組み合わせて行動できる

学会発表(症例報告)ができる
医学生/看護学生の指導ができる

相手と対話することができる

糖尿病、尿路結石、尿路感染の併存患者を
入院主治医として対応できる

System thinking、臨床倫理4分割法、
Pendleton Model、CUP-SOUP method
Effectual Diagnostic Approach

成長戦略

Step3

健康問題への継続的な関与を立案できる
多様な価値観を認め、最適解を共創できる
ガイドラインの限界を理解して行動できる

学んだことを自力で言語化して記録できる
研修医の指導ができる

チームリーダーを謙虚に務めあげる

様々な思いを持つ複数のステークホルダー
の意見を調整しながら、訪問診療導入に
向けたカンファレンスを運営できる

Patient Centered Medical Home、
Motivation theory、

総合診療専門医 相当

Step4

健康問題を通じて組織や地域社会を把握できる
学問に基づき、組織を動かす方法を立案できる
マニュアルのない状況でも対応できる

論文、商業誌、講演会などで医療に貢献できる
学年の若い専攻医を指導することができる

部門長として他部門とコラボレーションできる

入院を拒む認知症＋尿路感染＋老々介護世帯に対して
チームリーダーとして訪問診療/訪問看護を駆使し、
適切にマネジメントできる

家庭医療学、各領域の学問、経営学等

家庭医療/病院総合/在宅専門医 相当

現場力

改善力

共創力

具体例

使いこなす
理論や学問
考え方の例

モデルコース

	A：総合診療コース	B：病院家庭医コース	C：診療所家庭医コース
フェローシップ	在宅診療専門医・病院総合診療専門医・地域総合診療専門医		
4th year		南奈良 or 連携病院	診療所
3rd year	南奈良	連携病院	診療所
2nd year	連携病院/小児科	南奈良/小児科	南奈良/小児科
1st year	南奈良	南奈良	南奈良
取得資格	総合診療専門医	総合診療専門医 家庭医療専門医	総合診療専門医 家庭医療専門医

※連携病院は、関連病院である五條病院もしくは吉野病院での研修となります

※診療所は、南和地域や東和地域のへき地診療所を経験できます。

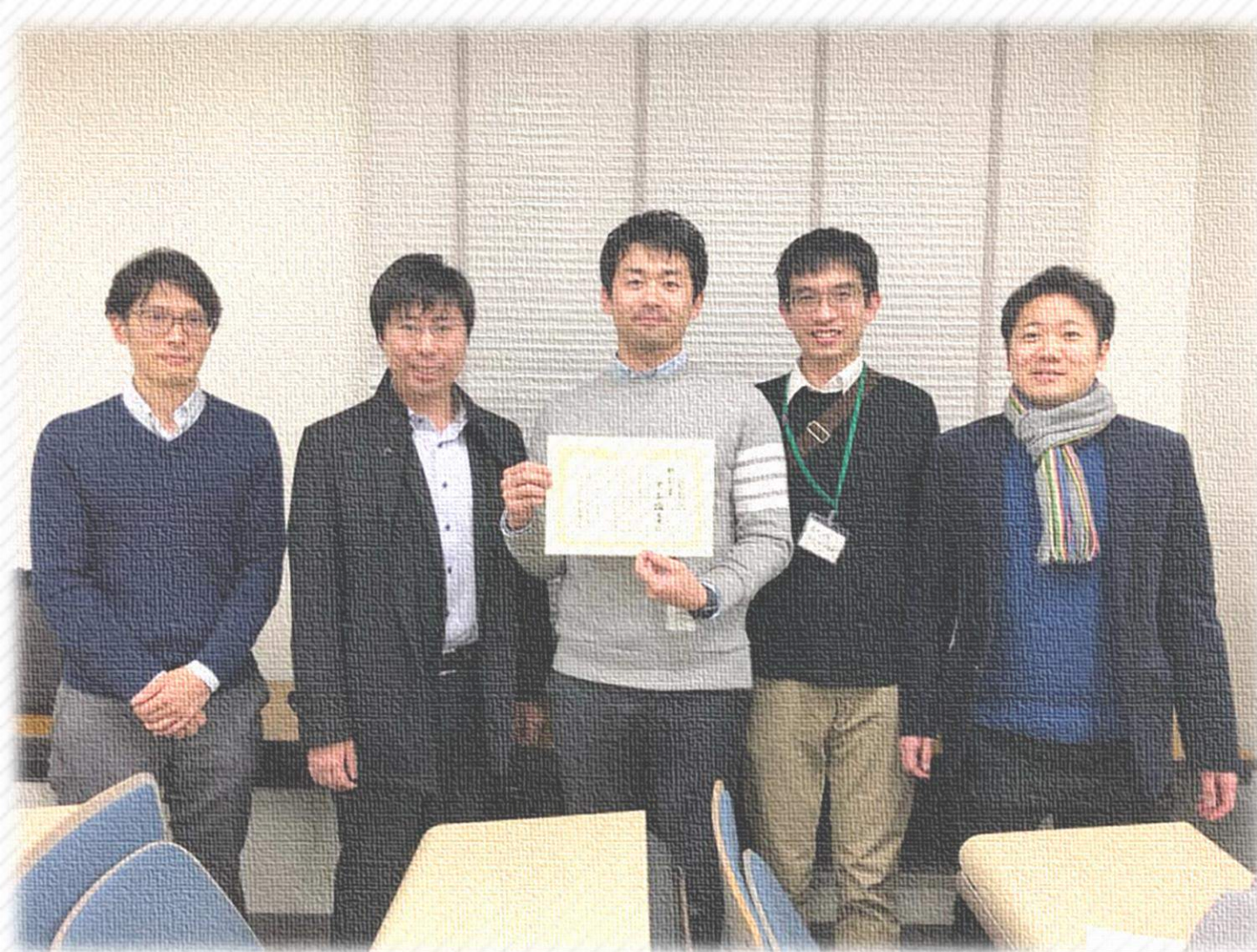
家庭医療専門医

「疾患ではなく、人を診る」 その方法を学問体系としてまとめたものがFamily Medicineです。世界的にはWONCAという学術団体による認証制度があり、日本の家庭医療専門医は国際認証を得ている“世界標準”の専門医資格です。

当院のプログラムは発足11年目を迎え、すでに10名の家庭医療専門医を輩出しています。プログラムの教育レベルは折り紙付きで、近畿ポर्टフォリオ発表会で優秀賞を2回受賞、専門医試験の成績優秀者に贈られる優秀ポर्टフォリオ賞も2017年度と2019年度の2回受賞するなど、全国トップクラスの成績を誇っています。

カンファレンスや振り返りで家庭医療学の理論的を学び、救急・病棟・在宅・地域といった多様かつ多彩なフィールドでバランスよく実践できるため、効率的かつ効果的に家庭医療学を学ぶことができます。

総合診療研修と同時履修が可能です。（受入れ枠：最大4名）



フェローシップ

総合診療専門医取得後のスキルアップを目指す制度として「フェローシップ」があります。

各自の興味関心に応じて、様々な道を準備しています。専門医取得関連では2つのコースがあります。

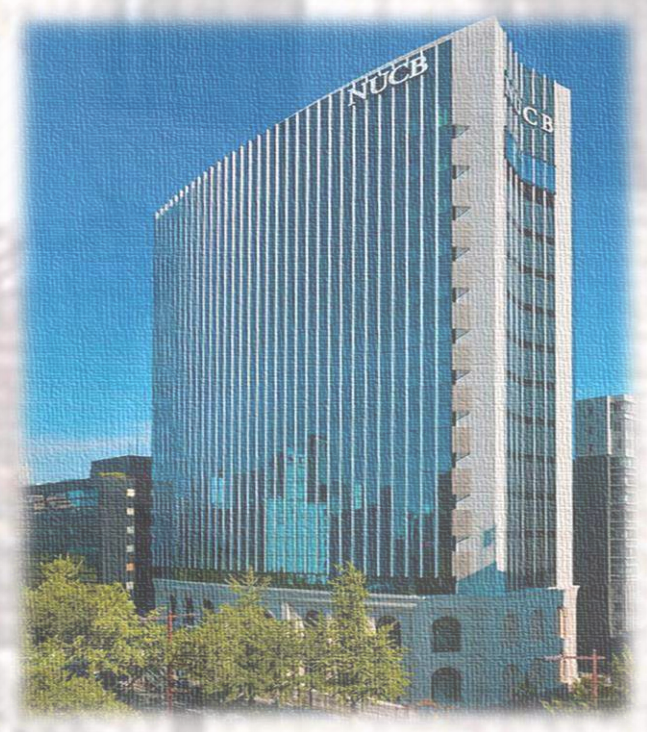
- ①在宅医療専門医フェローシップ
- ②病院総合診療専門医フェローシップ

1年間のフェローシップを経れば、
専門医試験を受験することができます。

※地域総合診療専門医フェローシップは現在、
調整中です。

このほかにも、南奈良総診は皆さんの「夢」を応援するための様々なコースを準備しています。
専門医取得後も様々な道で活躍できます。

- ・ MBA取得応援コース (ビジネススクール通学)
- ・ MPH取得応援コース (公衆衛生大学院通学)
- ・ 博士号取得応援コース (社会人大学院通学)



NUCB BUSINESS SCHOOLにて国際認証Executive MBA 取得

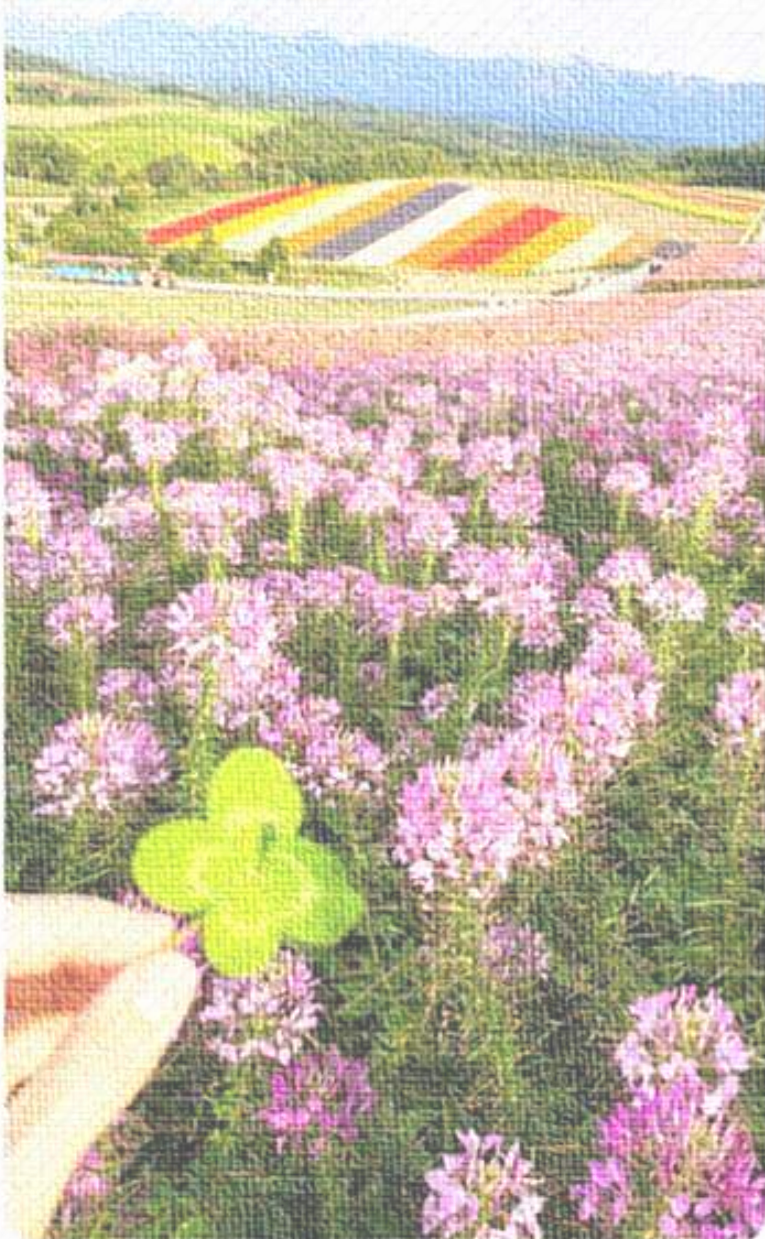


メリハリ

南奈良の病棟診療はサインアウト制なので、夜間休日に呼ばれることはありません。ゆっくり過ごすもよし、勉強や学会参加に使ってもよし。プライベートもしっかり確保できます。

上級医も夏休みや年休を取得しているので、専攻医も気兼ねなく休むことができます。産休・育休を取得したメンバーも多数おり、組織としてノウハウを持っています。

勤務中はしっかり働きチームに貢献し、休みときはしっかり休むことで、息切れせずに研修を続けることができます。



専攻医の声

充実したプログラムのおかげで日々多くのことを学んでいます。専攻医となり一人で判断する機会も増えてきていますが、チーム制/屋根瓦制なので少しでも疑問が残る場合にはいつでも上級医に相談することができますという安心感があります。また、当院では診療科間の垣根が低く、自科の上級医だけでなく他科の先生方にも気軽に相談に乗って頂けるため、総合診療医として必要不可欠な他科との連携を実践し学ぶことができます。

総合診療医は様々な場面で必要とされていますが、個々のセッティング毎に利用可能な医療資源の質と量が異なります。当院のプログラムでは病棟、救急外来、定期外来、在宅訪問診療、地域医療（へき地診療所等）の全ての場面を経験することができます。そのため、ある分野に偏ることなくバランスのよい診療スタイルを身につけていくことができます。

また、興味のあること（いわゆるスペシャルインタレスト）について、積極的に学ぶことができる環境があります。私は興味のあるエコー手技や筋膜リリースを学ぶ為に島根県の隠岐での短期研修の機会をいただきました。日々の診療に活かすとともに、同僚にシェアすることでチームとしての能力が上がっていくことを実感しています。

このように、バランスのとれた診療スタイルを身に付けつつ、自身の能力や個性を伸ばし、活かせるプログラムとなっています。上級医との日々の振り返りを通して次の日に疑問や不安を持ち越さず、着実に一步一步総合診療医として歩みを進めている実感を得られています。

中本 順 先生

2021年 総合診療専門医取得

2022年 家庭医療専門医取得



1 年目専攻医の週間スケジュール例

	月	火	水	木	金
朝	朝回診	朝回診	朝回診	朝回診	朝回診
午前	病棟診療	病棟診療	胃カメラ	ER診療	病棟診療
午後	外来診療	訪問診療	カンファ	病棟診療	カンファ
夕	夕回診	夕回診	夕回診	夕回診	夕回診

More Information

宿日直

- ・南奈良は安心の屋根瓦式
平日2～3回/月、休日1～2回/月
- ・診療所勤務中は各自治体の規定で宅直あり。

報酬

- ・基本給1年目：約600万円/年、2年目：約820万円/年
- ・手当等：通勤/住居手当・時間外手当・夜間休日手当
- ・診療所勤務中は各自治体の規定により支給。

研修環境

- ・院内WiFiあり。徒歩圏内に宿舎あり。
- ・週休2日・夏休5日 基本的に休みは完全Off

卒後

- ・全国の病院勤務、開業等（縛りなし!）
- ・南奈良でのフェローシップもあり

募集要項

- ・募集定員：6名以内/年
- ・選考方法：面接、小論文

アクセス

- ・特急電車が停まる「近鉄福神駅」に直結
- ・橿原神宮前から 電車直通 20分
- ・大阪阿部野橋から電車直通 1時間

周辺環境

- ・南奈良は駅直結のため電車通勤可能。
- ・院内/院外にコンビニあり
- ・へき地診療所勤務を希望する場合は基本的には自動車免許が必要。

その他

- ・院内保育園あり。
- ・総診スタッフは小さなお子さんがある家庭も多く、育児に理解あり。
- ・育休取得者/産後復帰者も多数在籍!

見学

- ・随時、受付中

お問い合わせ

〒638-8551

奈良県吉野郡大淀町大字福神8番1

南奈良総合医療センター内 教育研修センター

TEL: 0747-54-5000 FAX: 0747-54-5020

✉ nanwa-kyoiku@nanwairyou.jp

暮らしを共に創る医療

南奈良総合医療センター
総合診療専門研修プログラム



南奈良総合医療センター

ご縁がありますように。